

【プラン名】

交流・情報のターミナル化によって創発する新産業のイノベーション基地「道の駅・ワッショイ周南」

【現状の課題とプランの概要】

周南市の都市部（旧徳山）の産業と経済は、重工業というビッグビジネスが主要な産業であり、周辺地域の経済もこのビッグビジネスを大いに頼ってきた側面があります。

この構造が、これからもこの市域を支え続けることに間違いありませんが、このグローバルなビッグビジネスに依存してきたことによって、地域経済や地域社会の空洞化への危機感が、ややもすれば事態の進行に追いつけず、地域社会の持続を支えていく「小商い」というローカルな産業を成熟させ得なかったことの遠因ともいえます。

このスモールビジネスというべき、私たちの生活に密着した産業が、時代のニーズに柔軟に対応し、成熟し、集積され、持続可能な地域社会への指標となるような地域デザインを、市民の多くが共有できるような形で描かれていないという所にも課題があります。

今回の「周南市西部道の駅」開業は、この課題を正面から受け止めて、一部地域に止まらず、これよりの周南市全域にわたる連携と交流のデザインを広々と描き、イノベティブな手法を大胆に取り入れて、市民経済というべきスモールビジネスの育成と集積を推進する大きなチャンスとなります。「周南ならではの新産業」構築の格好の機会と言えます。

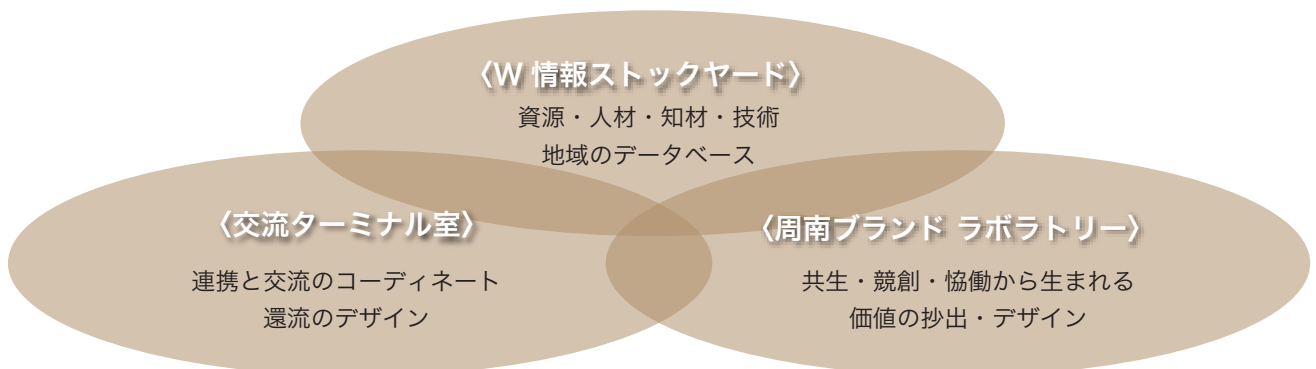
【新産業構築に求められる機能】

現状の課題を乗り越え、小さな産業を萌芽、育成、集積していくために、道の駅の従来の3機能（休憩・情報発信・地域連携）を土台としつつ、更に数段ステップアップした、大胆な手法、ソーシャル・イノベーション化した機能が発揮出するようなネットワークを形成します。

その1 〈W 情報ストックヤード〉 周南の資源価値の情報を集積する機能。

その2 〈周南ブランド ラボラトリー〉 共生・競創・協働をキーワードとした価値創出のためデザイン機能。

その3 〈交流ターミナル室〉 多様で多重な連携と交流を支え、始点でもあり終点でもあり得る連携機能。



収集・集約・連結の機能

【機能から創出されるもの】

まず、新産業の礎となる地域資源の情報を収集・集積し、ランダムに分析・閲覧できる「W 情報ストックヤード」は、新産業の育成に不可欠な堆肥ともいえる機能で、すべてのスキーム、つまりヒト・モノの流れ、その関係性から生じる連携のターミナル化や特産ブランド「周南ならでは」のモノづくり・価値創出においても多くはこのデータベースから導かれるものです。

「道の駅」で確保された共同オフィスの SOHO やボランティアスタッフで構成された「周南ブランドラボラトリー」は柔軟な活動体です。データベースを資材として、多様で多重な連携を絡めて、新たなる価値を創出していくのが「周南ブランドラボラトリー」のデザインとデリバリー機能です。「周南ならでは」の商品価値を保持したもの（特産品やサービス・システム）を作り上げます。未来を託すべき地域の「小商い」を育み、地域経済を押し上げ、多くの市民へ還流をもたらすスモールビジネス育成支援に欠かせないものです。

単なる物流の通過点（直売所）としての「道の駅」ではなく、終点として集約される資源や商品が、ここを始点として更に新しい価値を創出して再発信されるという還流の躍動的なターミナル機能を発揮させるのが「道の駅・交流ターミナル室」です。

商品開発のみならず、情報の受発信、イベント運営などを通して、地域の連携と交流の輪、多世代間、地域間など、多様で多重な関係を集約し、ネットワーク化する活動を行います。市内各地の地域コーディネーターや子育てママ、文化継承活動家などのボランティアや NPO 団体・行政スタッフなどを交えて、「道の駅」のターミナル化を進め、イベントやツーリズム・防災ボランティアネットワークの創出を推進します。

【波及する効果】

単一では少なくとも既存の価値でしかないものが、他の資源や情報との関係性の中で、別の価値を発揮することがあります。そのために周南ならではの「小商い」が結集していくプロセスにおいても、柔軟な応用力と新規な対応力が求められます。前述の三つの機能を活用して生み出された特産品の多くは、身近な生活や環境にある資源から生み出されることにより、私たちの生活・環境への視点や地域との関わりを再認識する大きな契機となります。（周南 W コレクションなど★レポート参照）

そして、特産品に限らず、イベント・ネットワークが集約された「周南ブランド」、その根底にある明確なイメージを内外に発信することによって、物流以外にも様々な領域で新しい産業を創発します。特に「ターミナル機能」から掘出される新しいツーリズム資源、グリーンツーリズムをはじめ、エコツーリズム・グルメツーリズム・産業ツーリズム等の創出も大きな経済効果が期待できます。（周南新ツーリズムなど★レポート参照）

また、地域情報と地域ネットワークの情報ストックヤード機能からは、身近な情報端末による防災情報ネットワークの形成や災害ボランティアネットワークの形成を促進する方向も見えてきます。地域の環境や連携を見直すことを通じて、現状のリスク管理への意識が芽生え、災害に対する自助・共助システムを再認識の契機ともなり、防災情報への応用も可能となります。（防災ボランティアネットワークなど★レポート参照）